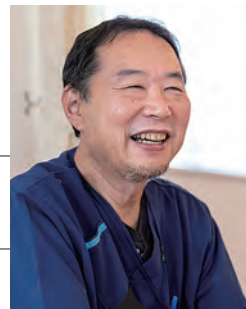


# 多職種連携で支える地域医療

一般社団法人 由利本荘医師会

〒015-0885 秋田県由利本荘市水林456-4  
TEL 0184-22-0054 / <http://honyui.jp>



「最後まで自分らしく生きたい。そんな当たり前の願いを支えたい」と伊藤医師

## 人生に寄り添い、語り、紡がれる物語「ナラティブブック秋田」



### 治すだけではない。支えるための医療

「患者さんの情報はカルテやお薬手帳など様々な形で記録されますが、そこから患者さんの生活や生き方は見えてきません。その人が何を想い、何を願ってどう生きたいのか。私たちが向き合うべきは患者さんの“人生”です」。

由利本荘市の伊藤医院院長の伊藤氏が中心となり、由利本荘医師会が実践した地域包括ケアシステム「ナラティブブック秋田」は、在宅医療を受けている患者の情報をクラウドで一元化し、本人や家族を中心に、医師・看護師・ケアマネージャーなど多職種で共有する地域医療介護連携支援ICTツールだ。治療情報を共有するツールは他にもあるが、管理者が患者自身であり、治療記録と本人の想いをダイレクトに共有できるところが他と一線を画す。

「ナラティブブックで語られるのは、患者さんの願いや想い。春になったら家族に畑仕事を教えたい、病気が治ったらバーベキューがしたい。そんな願いを支える側全員が共有し、叶えるために力を尽くします」。

医療の細分化が進む現代において医療従事者同士の連携は決して容易いものではない。県が由利本荘医師会地域をモデル事業として採用したこと、同時期に同地区で介護・医療・在宅に関わる多職種連携が推進されたことで事業は加速度的に成長した。

### 2018年度グッドデザイン・ベスト100受賞!

システム確立後の次の狙いとして、開発を担当した岡崎氏(クロスケアフィールド株式会社代表)と共に認知向上の手段を模索。今年度、センターを介してグッドデザイン賞への応募に臨んだ。センターでは申請から2次審査、プレゼン等、段階ごとの支援を受け、見事受賞。プロジェクトが日本の終末医療、地方医療に一石を投じる姿勢が評価され、さらにグッドデザイン・ベスト100に選ばれた。

「事業理念を含めて“人と社会のためになるデザイン”として評価されたことは大きい。既に医療とは異なる分野からの問合せも多々あり、事業の社会的意義や多様性を実感しています。この取組をモデルケースとして他の地域医療を支えていきたいですね」。



事業の中心メンバーである岡崎氏とはWeb会議で連携を密にする。



クラウド上で綴られた物語は最後に一冊の本にすることもできる。

事業概要

秋田県よろず支援拠点

売上拡大、経営改善など経営上のあらゆる悩みの相談に対応。コーディネーターを中心とする専門スタッフが適切な解決方法を提案します。

お問い合わせ

秋田県よろず支援拠点(あきた企業活性化センター内)  
TEL.018-860-5605